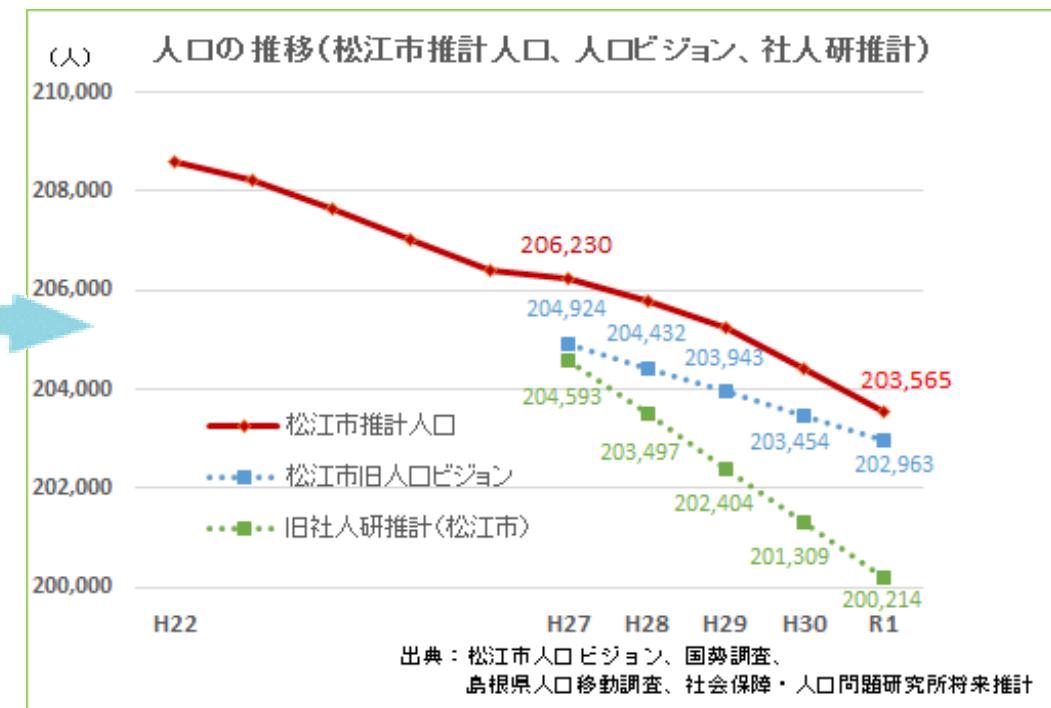
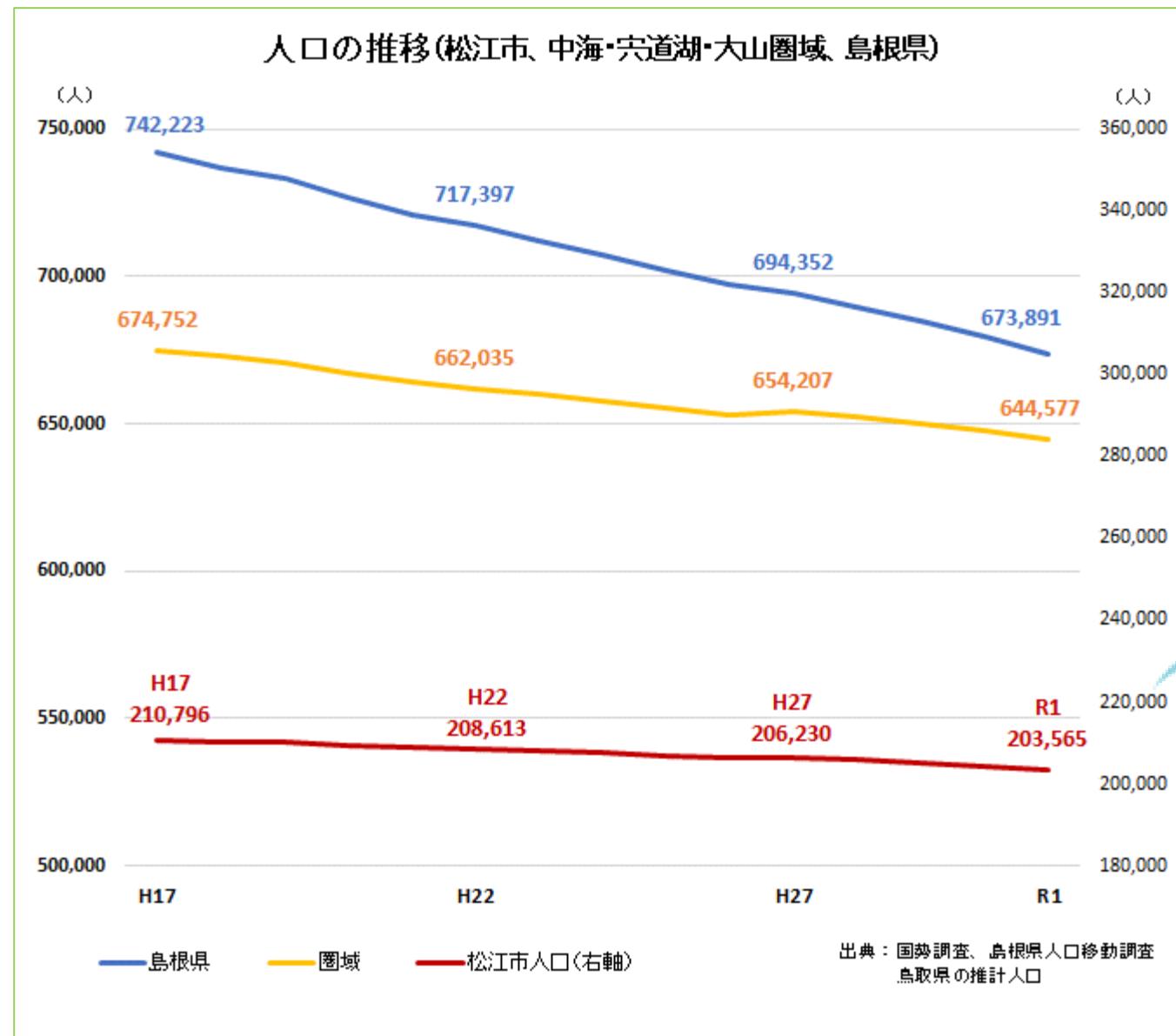


松江市の人口動向について

松江市の人口動向

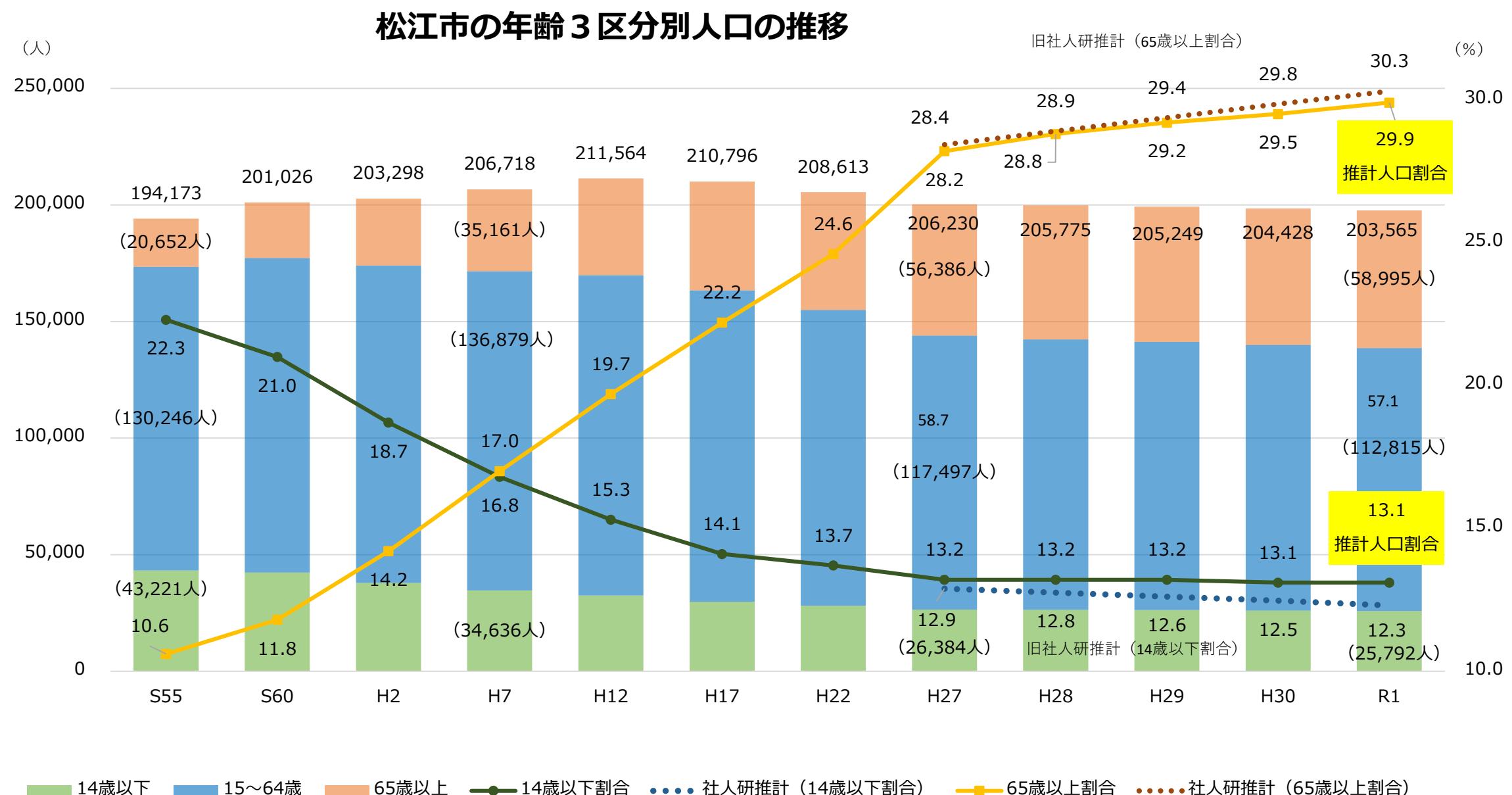
①人口の推移（松江市、松江市人口ビジョン、島根県、圏域）

- 令和元年10月1日時点の本市の推計人口は、203,565人である。
 - 平成22年の国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所が推計した同時点の人口推計値200,214人及び本市人口ビジョンの人口推計値202,963人を上回っている。
 - 人口の減少傾向が続くなか、減少スピードを極力抑えることが必要である。



松江市の人口動向 ②年齢3区分別人口の推移

- 高齢者数及び高齢化率は平成27年以降も上昇を続け、令和元年に29.9%と過去最高を記録した。
- 14歳未満の年少人口率は約13%で横ばいである。
- 15歳から64歳の生産年齢人口は平成27年の58.7%（117,497人）から令和元年57.1%（112,815人）と減少を続けている。



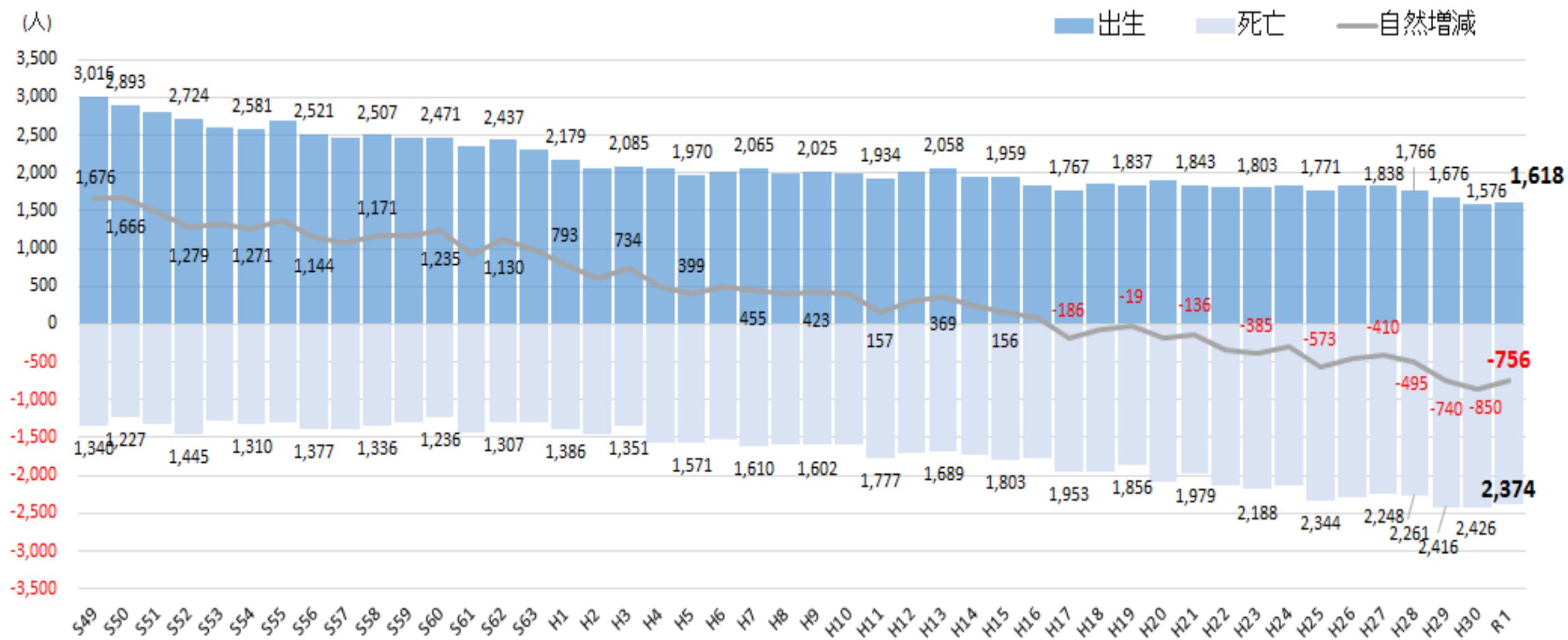
注) 総数には「不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない。
割合は、分母から「不詳」を除いて算出している。

出典：国勢調査（総務省統計局）、島根県人口移動調査（島根県）
日本の地域別将来推計人口（社会保障人口問題研究所）

松江市の人団動向 ③自然増減の推移

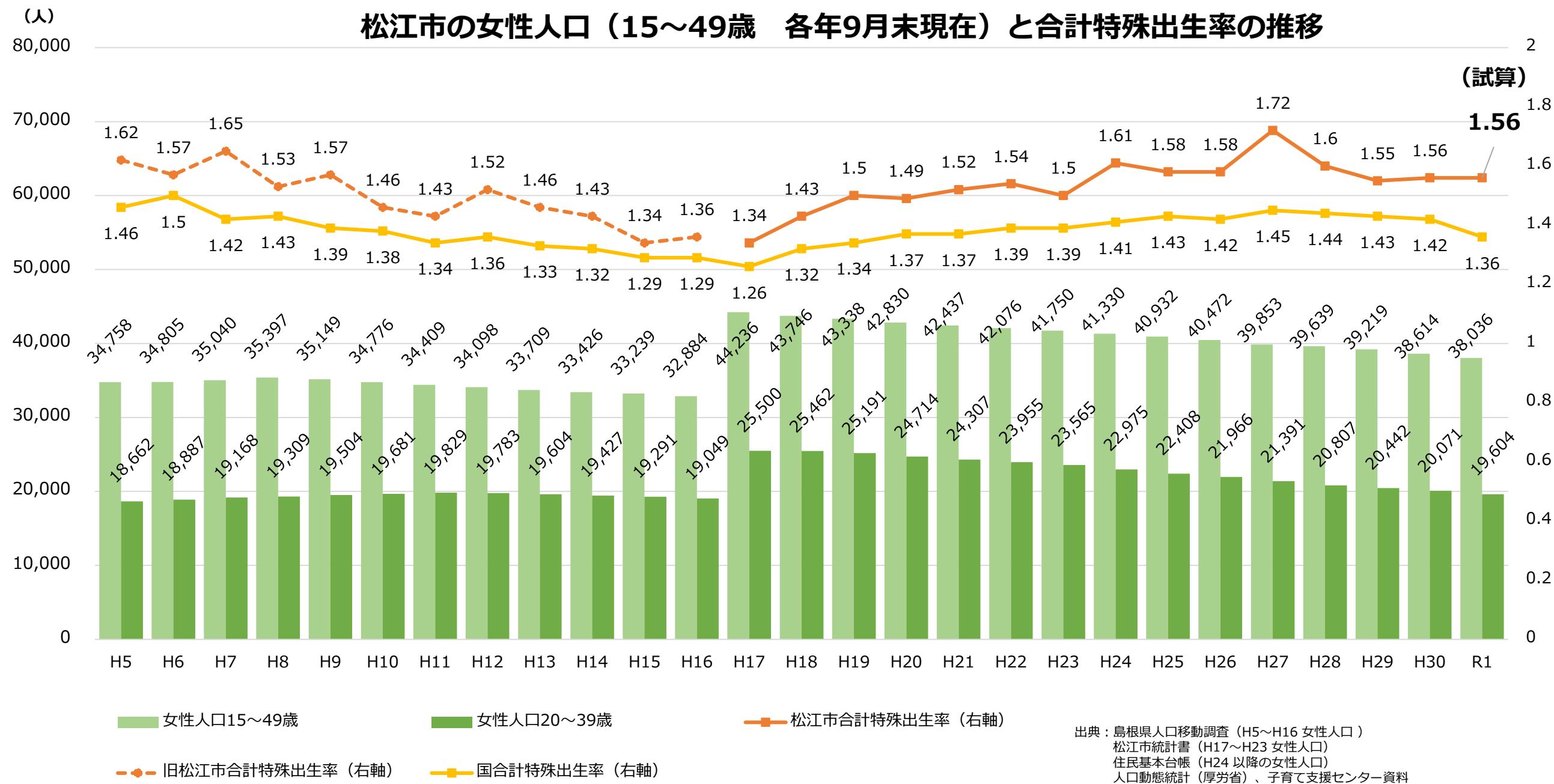
- 出生数は、出産適齢期にある女性の人口が減少しつつあること（4ページ参照）、女性の社会進出の進展等による婚姻意識の変化に伴う未婚化や晩婚化等により、低いまま推移している。将来の出生の目安となる婚姻届や妊娠届の届出件数も伸び悩んでおり、自然減の傾向は今後も続くと思われる。

自然増減の推移(各年10月～9月)

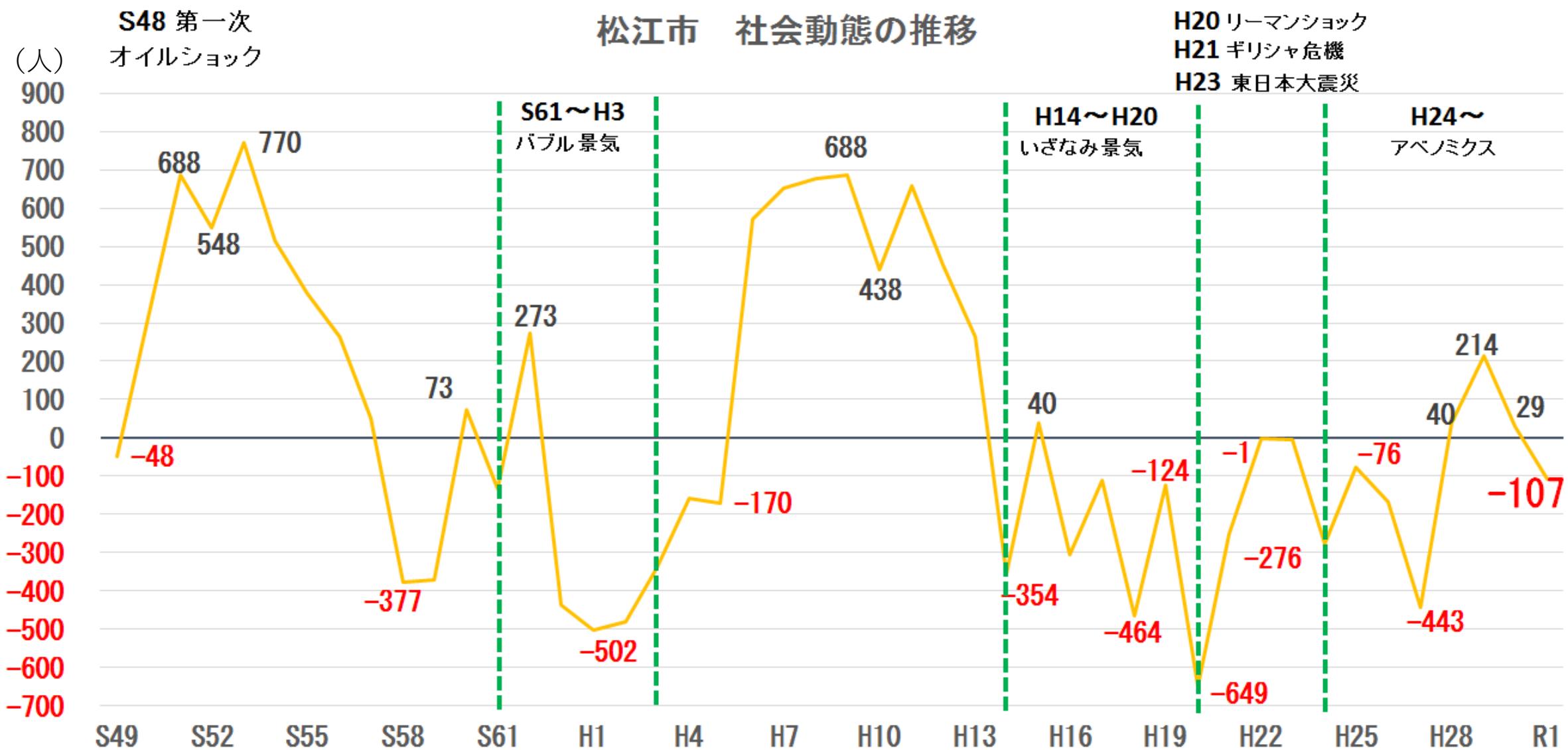


出典：島根県人口移動調査

- 合計特殊出生率の算出基礎となる15歳から49歳までの女性人口は令和元年に38,036人となり、平成20年以降、毎年0.54～1.54%減少している。
- 20歳から39歳の女性人口は、平成20年以降、毎年1.45%～2.73%減少している。

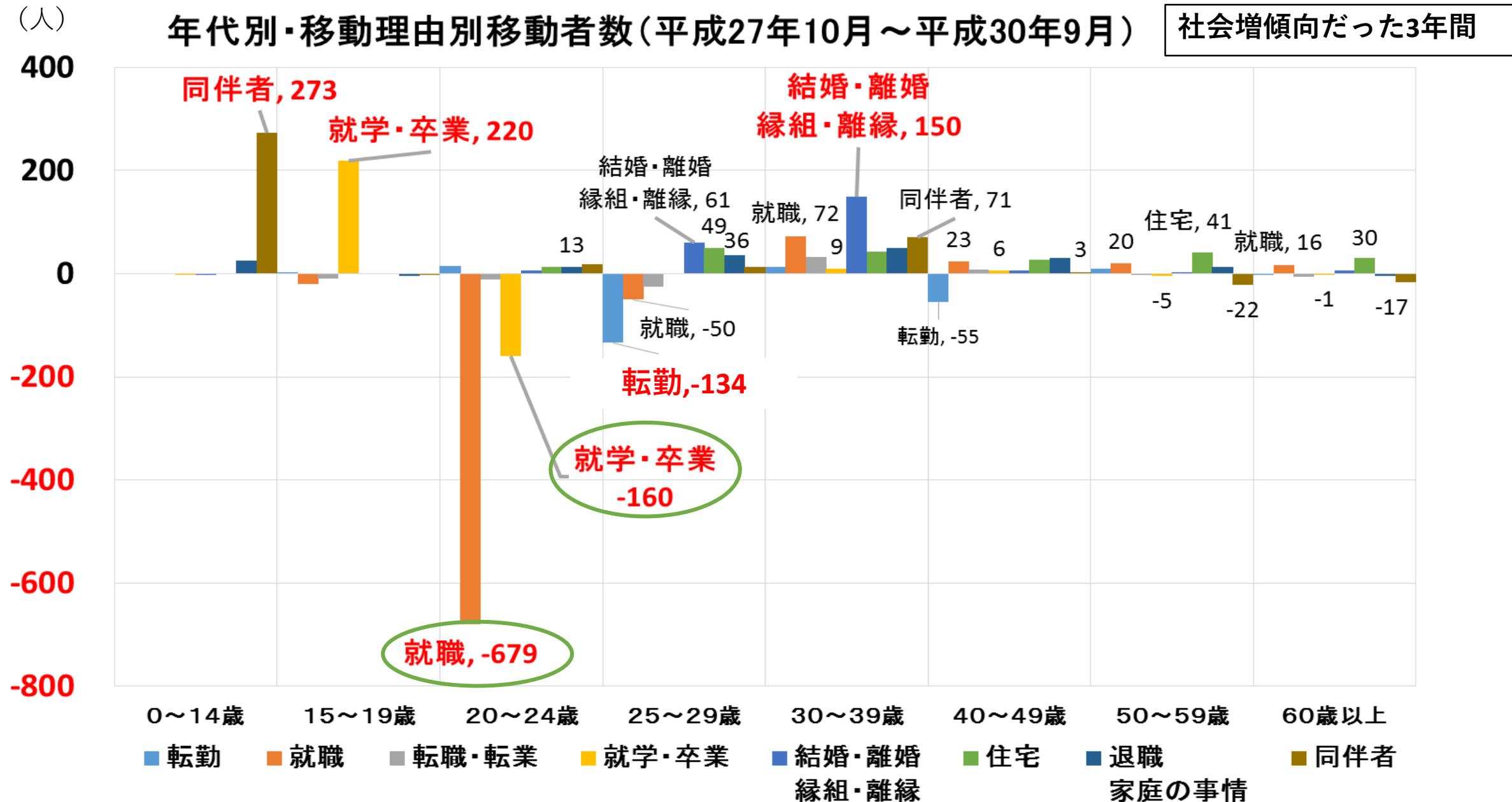


- 第1次総合戦略の策定後3カ年（H28～30）は社会増に転じている。理由としては、大都市圏だけでなく松江市においても求人倍率の上昇傾向が続くなど雇用環境が安定していたこと、特に県外において就職を理由とした転入が増え転出が減ったことや、外国人が増加したこと等が挙げられる。
- 一方で、令和元年は社会減に転じている。理由としては、県内市町村からの転入出の影響が大きく、その中でも安来市からの転入が減少し、出雲市、雲南市への転出が増加したこと等が挙げられる。



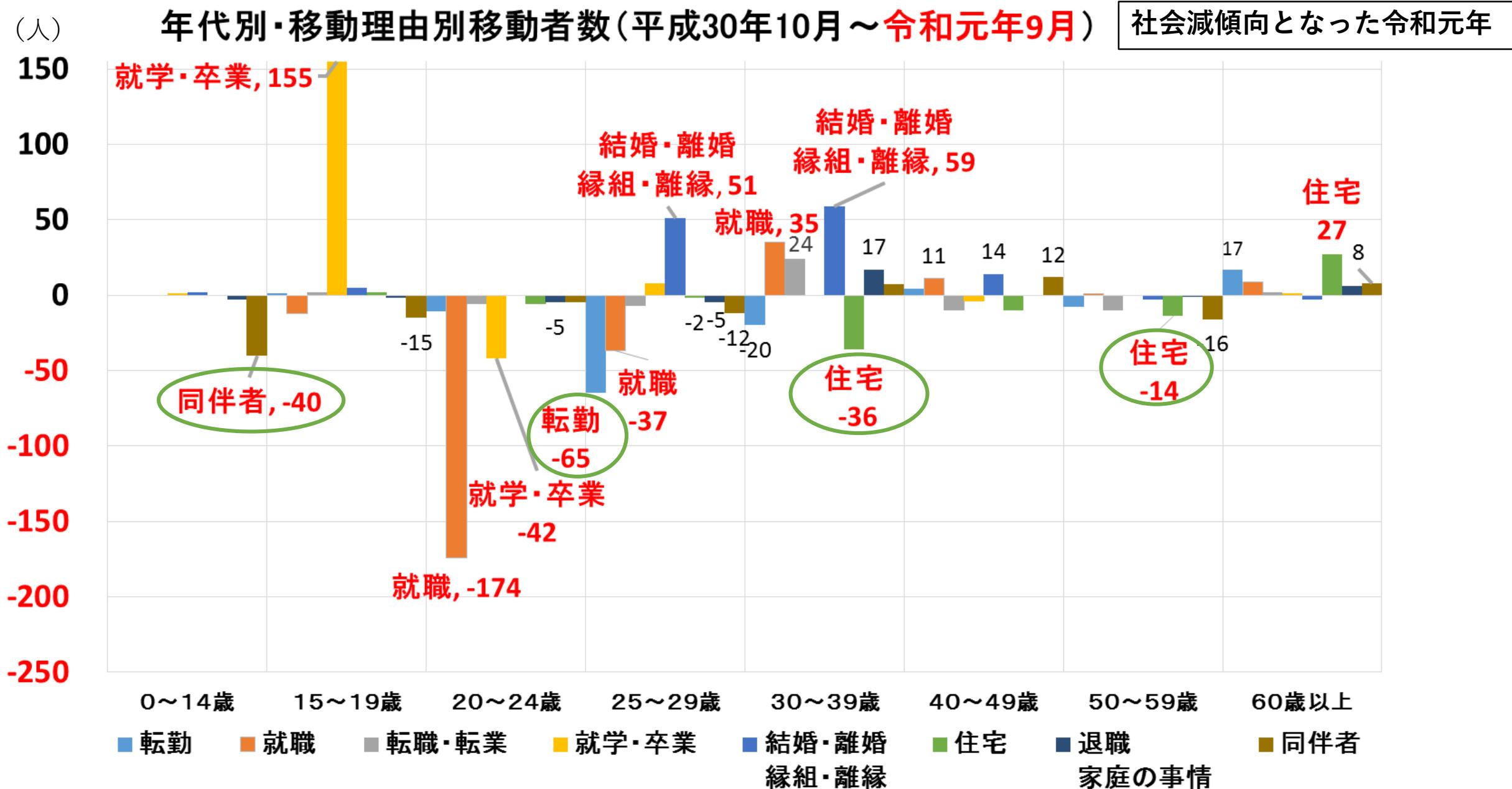
注：10月1日現在（前年10月～9月）
出典：島根県人口移動調査

- 依然として、20歳～24歳の就職・就学・卒業を理由とした県外への人口流出に歯止めがかかるない。



出典：島根県人口移動調査

- 令和元年に社会減となつた理由を見ると0~14歳の「同伴者」、25~29歳の「転勤」、30歳代・50歳代の「住宅」における減少が特徴的である。
- 同伴者、住宅については社会増となつた直近3年間と反対の傾向である。



出典：島根県人口移動調査